

報道関係各位

2019年11月5日

プレスリリース

ギアナ高地とドイルの『失われた世界』——作家の想像力とイギリス探検帝国主義

日比谷図書文化館では「ギアナ高地とドイルの『失われた世界』——作家の想像力とイギリス探検帝国主義」を開催します。

1912年刊行の Conan・ドイルの SF 恐竜小説『失われた世界』。イギリス人四人組が南米探検に出かけ、テーブルマウンテンの参照で先史時代の恐竜と猿人に遭遇するというこの小説はベストセラーからロングセラーとなり、ギアナ高地・ロライマ山も広く知れ渡るようになりました。作品に描かれた動植物の名称、素晴らしい自然の描写、ロライマ山探検で忘れてはならない事項やアイテムなどが正確に描かれています。この地を訪れていないドイルはどのように情報を収集したのでしょうか。

ベネズエラ・ギアナ高地の滞在時に埋もれた侵略の歴史を明らかにした遡ること 19 世紀、「憧れが侵略に変化」したロライマ山探検記録に描かれた記録と、ドイルの『失われた世界』の描写。

ドイルの想像力はどこからきているのか、記録と小説との関係とは。ベネズエラ・ギアナ高地の三年間の滞在時にその地の産金地帯や前線基地を回り、埋もれた侵略の歴史を明らかにした歴史研究者・山田篤美氏が、ドイルの想像力の秘密に迫ります。



ドイルの『失われた世界』初版本の挿絵

講師 山田 篤美（歴史研究者）

京都大学卒業、オハイオ州立大学修士課程修了。専門はグローバル・ヒストリーにおける探検史、真珠史、黄金史。『黄金郷(エルドラド)伝説——スペインとイギリスの探検帝国主義』（中公新書、現在電子版で販売）は、講師がベネズエラ・ギアナ高地の三年間の滞在時に、その地の産金地帯や前線基地を回り、埋もれた侵略の歴史を明らかにしたもの。今回の講演のベースでもある。他の著書に、『ムガル美術の旅』（朝日新聞社）や『真珠の世界史——富と野望の五千年』（中公新書）など。ベネズエラは真珠史との関わりが深く、今日、真珠業界・宝石業界を中心に真珠の歴史についての講演会も多数実施している。

開催概要

- 日時：2019年11月28日（木）19:00～20:30（18:30 開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1000円
- 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、
① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：並木 namiki-yuri@shopro.co.jp、中村 nakamura-shoko@shopro.co.jp
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-4 TEL：03-3502-3340/ FAX：03-3502-3341
ホームページ：https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/